



埼玉西部消防局 山岳救助隊 NEWS



新春号

平成 27年
1月 15日 発行

埼玉西部消防局管内 山岳遭難事故発生状況（平成 26 年 8 月～12 月）

8月 3日	12 時頃	棒ノ嶺	70 代男性	下り坂で転倒し負傷（歩行不能）	軽症
8月 8日	4 時頃	棒ノ嶺	50 代女性	トレイルランニング中道に迷い行動不能	軽症
9月 24日	13 時頃	大高山	70 代男性	山仕事中に 15m 滑落し負傷	重症
9月 26日	12 時頃	棒ノ嶺	50 代男性	登山中に 5m 滑落し負傷	中等症
10月 3日	10 時頃	日和田山	小学生男児	登山中に 3 滑落し負傷	軽症
10月 14日	13 時頃	多峯主	70 代男性	山頂にて持病を発症	中等症
10月 19日	15 時頃	高山不動	70 代男性	登山中に一時的に意識喪失	軽症
10月 25日	9 時頃	棒ノ嶺	30 代女性	沢道を登山中に 3m 滑落し負傷	中等症
11月 4日	18 時頃	棒ノ嶺	60 代女性	日没後行動不能となる	負傷無
11月 14日	11 時頃	子の権現	60 代女性	登山中に 10m 滑落し負傷	中等症

「冬の登山は要注意！！」

しっかりとした準備で安全な登山にしましょう！」

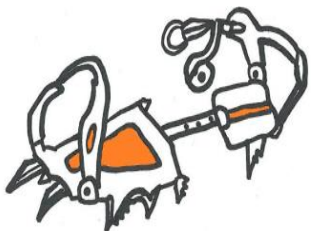


本年も、災害に強い町を皆様と作っていただけるように努力してまいります。ご支援のほどお願い申し上げます。今回の新春号では、＜冬山登山の特徴と装備＞、＜冬山登山の安全管理＞について記述いたします。安全な登山を行い、冬の見通しの良い景色、澄み切った清々しい空気を山頂で感じていただけたらと思っております。

＜冬山登山の特徴と装備＞

冬の季節の一番の特徴はなんと言っても **寒さ** と **凍結** です。

気温は標高が上がれば下がります。家の前では暖かくても山頂はマイナスの世界です。だからといって着込めばいいわけではありません。冬でも少し登ると汗をかきます。服が濡れると極端に体温が奪われてしまいます。脱ぎ着しやすい服を着て体温調節を行い、汗をかいてしまった場合にはすばやく着替えるようにしましょう。また三月頃に寒さが緩んだと思って油断するのも危険です。山の変わりやすい気温や天候を考慮し、ダウンジャケットの携行など防寒着と着替えを必ず持って行くようにしましょう。



冬山は北側斜面が凍ります。特に岩場や木の根は要注意です。日の当たり方で部分的に凍っている斜面もあります。さらには、雪でルートが見えづらくなり、行ったことがあるルートでもわからなくなる可能性があります。アイゼンなどの装備を揃え雪道でも歩けるようにして、道がわからなくなったら止まって地図を確認することが大切です。冬の登山は時間がかかることを考慮し、登山ルートを選定には十分な計画を練るようにしましょう。

<冬山登山の安全管理>

安全管理のポイントは **情報収集**、**事前準備**、**点検** です。

まず、はじめの情報収集として、天気予報を必ず確認しましょう。冬に天候が荒れると、その悪条件は他の季節に比べて厳しいものとなります。荒れ模様になりそうであれば、その日は避けるようにしましょう。

次に、事前準備として、最悪な事態を想像して準備してください。たとえば、登山計画を作る際に、もしもの事を考え、エスケープルート〔登山中に悪天候や体調不良など不足の事態に遭遇してしまったときの避難ルート〕を決め、それをリーダーが行動不能に陥る場合を考えてメンバー全員が把握しておくようにする事や、下山が厳しくなった場合、山の中で一晩過ごせる装備を準備することなど、想像し準備するだけで最悪の事態に対応することができます。

最後に、点検です。近年の登山人気で経験の少ない登山者が増え、事故や怪我をしてしまう方が増えてしまっていますが、決して登山経験者が事故を起こしていないというわけではありません。経験者も未経験者も点検は必ず行うようにしましょう。登山靴の劣化やロープの劣化、カラビナの傷、ヘッドライトの電池切れなど、装備の点検。ハーネスの正しい位置や締め付け方など、知識の点検。さらにロープの結び方法、摩擦がかかった結び目になっているか、緩みはないか、技術の点検をしましょう。

新しい年が始まりました。まずは基本に戻り、安全第一の気持ちを再確認してよりよい登山にしましょう。

山岳救助隊員の一言

埼玉西部消防局の山岳救助隊は平成26年7月に発隊してから半年になります。もちろん、何年も前から山岳地での救助活動は行ってきましたが、山岳救助隊という看板を背負う事はとても特別な事だと感じています。

山岳救助隊が発隊することで、山に特化した資機材を持つことができ、知識、技術を向上していくことにより、よりよい活動が出来るようになりました。しかし、それだけが特別なことではありません。少しずつではありますが、地域の皆様に山岳救助隊がある組織だと知っていただくことで、少しの安心を与えることが出来ているのではないかと感じています。その安心感、信頼感は、私達にとってとても特別なことです。そして、それは半年で得たものではなく、全国の山岳救助隊が築き上げたものだと思っています。私もその山岳救助隊の一人として責任とやりがいを感じ、皆様の期待に応えられるようにこれからも努力して行きます。



私達の仕事は地域の協力なくしては達成出来ないものです。協力の連鎖により活動が出来ます。それは山岳地でも同じです。いくら良い資機材や技術が向上しても、人を助けるということはとても難しいことです。もし登山をしている時、何か異変を感じたら、パーティー以外の方だとしても声をかけ知らせて下さい。体調が悪そうな人がいたら手を差し伸べてみてください。登山をしている人全員が安全を目指して協力し、助け合えたら、そんな心強いことはありません。そんな暖かい山を皆さんと作って行きたいと思います。

これからもさまざまな事に挑戦していきます。ご支援のほどよろしくお願いいたします。

登山届けを提出しましょう！！

提出された登山届けの情報をもとに、搜索活動を行います。登山届けは、登山口に設置してあるポストや、埼玉県警察のホームページからも提出できます。また、家族や身近な人に渡しておくだけでも大きな情報源となります。



